

地域社会福祉協議会運営マニュアル

活動編

地域社会福祉協議会では、住民の創意工夫により地域福祉活動が展開されています。その活動は、年に数回のイベントや行事、グループによる定例的な援助活動に加え、個別の生活援助活動までさまざまです。



このマニュアルは、これまで住民の主体的な参画により実践されてきた地域社会福祉協議会のさまざまな活動が、これからも継続して実践されることを、応援するためのものです。

**私たちの目標は、
誰もが、住み慣れた地域で
安心して イキイキと
暮らし続けられる
福祉のまちづくりです。**

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
大阪市内各区社会福祉協議会

地域社会福祉協議会の活動

地域社会福祉協議会は、昭和 26 年頃から住民の創意工夫により活動が展開されています。

その活動は、年に数回のイベントや行事、グループによる定例的な援助活動に加え、個別の援助活動までさまざまです。

地域社会福祉協議会で取り組まれている地域福祉活動

① 高齢者食事サービス活動

概ね 65 歳以上（実施地域により異なります）の高齢者に集会所での会食やご自宅への配食を行います。

② ふれあい喫茶活動

子どもから高齢者まで、お茶を飲みながら、気軽に交流できる場を提供します。

③ 子育て支援活動

乳幼児と保護者が楽しく遊べ、子育ての悩みや仲間の輪が広がることを目的にサロン活動や支援をします。

④ 見守り、声かけ活動

地域でのつながりを基礎にした、見守り、声かけ活動は、あたたかい福祉のまちづくりの原点です。

⑤ 実態調査活動

地域福祉の推進に向け、要援護者に対するニーズ調査などを行い、活動の実施へとつなげていきます。

⑥ 広報活動

広報紙やホームページなどで地域の活動を幅広く周知し、活動への参画を呼びかける活動です。

⑦ 敬老会活動

同じ町に暮らす高齢の方の、これまでの活躍に感謝し、敬意を表する活動です。

⑧ 登下校の見守り活動

朝夕子どもたちの登下校を見守ります。地域での世代間交流のきっかけにもなっています。

⑨ 災害時の支え合い活動

災害時の要援護者の支援に向け、地域防災講座の開催、防災マップの作成など、地域の支え合い活動に取り組みます。

これらの活動は、同じ地域に住む住民が互いに支え合い、すべての人が楽しく、安心して暮らしていけるまちづくりをめざして取り組まれています。

<活動事例紹介>

事例 1 「世代を超えたボランティアの広がり」の取り組み

〇〇地域社会福祉協議会では、ベテランのボランティアが中心になって喫茶活動を支援してきました。他の活動でつながりのあった P T A に声をかけたところ、一緒に活動が始まり、その後、P T A だけの運営日を設定できるまでになりました。

また、喫茶終了後にボランティアの反省会をすることによって、世代を超えたサークル活動のような連携が生まれ、いい関係が長く続いています。

事例 2 「見守り活動」～高齢者 1 1 0 番ネット事業～の取り組み

〇〇地域社会福祉協議会では、「災害時、一人も見逃さない」を目標に、65 歳以上の高齢者を対象として、地域住民が日常的に支援するネットワークの体制があります。すこやかクラブ会員の登録者(65 歳以上で趣旨に同意した人)を高齢者 110 番の家登録者(高齢者サポーター)が毎月 1 回、地域情報掲載の「お節介通信」を持って訪問し、悩みごと・相談を聞き取ります。高齢者サポーターは、「高齢者 110 番の家」ステッカーを自宅に掲示し、災害時や緊急時の対応を担います。

地域社会福祉協議会が取り組む 地域福祉活動の機能と役割

機能① 伝える

誰もが安心して、イキイキと暮らせる福祉のまちづくりに向け、地域住民に対し、地域のつながりの大切さや地域福祉活動の意義を**伝える**役割。

機能② つなぐ

地域には、さまざまな人が暮らしています。そんなみんなが世代や国籍の違い、障がいの有無、生活スタイルの違いなどを超え、互いに**つながり**のあるまちをつくる役割。

機能③ 支える

生活スタイルの多様化等により、地域で暮らすにはさまざまな課題が生まれてきています。その課題の解決に向け互いに**支え合える**まちをつくる役割。

機能④ 調べる

誰もが安心して、イキイキと暮らせる福祉のまちづくりに向け、地域にあった地域福祉活動に取り組む基礎となる地域の実情を**調査し、把握する**役割。

機能⑤ 広げる・集める

地域福祉活動に必要な経費を確保するには、少人数では難しいことです。活動の実施に向け、地域をあげた取り組みに**広げ、みんなから財源を集める**役割。

機能⑥ 学ぶ

地域福祉活動を充実するには、より多くの方の主体的な活動参加が必要になることから、さまざまな人が気軽に地域福祉活動について**学習する場づくり**をする役割。

機能⑦ 話し合う

誰もが安心して、イキイキと暮らせる福祉のまちづくりに向け、地域住民が互いに意見を出し合える、**話し合いの場づくり**をする役割。

事例3 「ホームページ、携帯電話による情報発信」の取り組み

〇〇地域社会福祉協議会では、地域限定の活動情報や行事案内を携帯電話でもアクセスできるホームページに掲載しています。希望者にはメールマガジンでも情報を配信しています。この取り組みにより、これまで回覧板の回りが遅くて活動に参加できなかった人や、町会に入っていない人、他地域にお住まいの人にも情報を伝えられるようになりました。

また、定例行事の日程が急に変更になった場合や、活動日に欠席した人にも、最新の情報を伝えられるようになりました。

事例4 「地域防災活動寄金による財源確保」の取り組み

〇〇地域社会福祉協議会では、地域防災活動をより多くの方に伝え、みんなで支え合う活動にしていくことを目的に地域防災活動寄金を募集しています。この寄金により小学校下にある備蓄品（簡易トイレ、投光機、生活用品など）を充実することができました。この寄金募集は、単年度の取り組みではなく、毎年1回、寄金募集をつづけることで、地域防災意識の向上にもつながっています。

また、目的別に寄金募集したことで、収支報告、活動報告を明確にできるようになりました。

地域福祉活動の実践に向けて

Step 1

こんなまちになったらいいなあ～

話し合う場をつくる

身近な地域の『未来予想図』（将来像）を描いてみましょう。そのためには、集まり、語り合う場が必要です！！ 地域住民の意見を聞く場として、住民懇談会・喫茶・食事サービス・町会の会議・アンケートなど様々な方法があります。

住民懇談会・アンケート等

Step 2

何をめざすのか？

目標をたてる

目標について話し合う中で、今、どのようなことが必要か。解決しなくてはならない課題は何かを考える必要があります。その中で共感の輪を広げ、共通の認識を持つこともできます。近くの事例を見学に行くのも一つの方法です。

地域福祉学習会・見学会等

Step 3

どのように実行するのか？

計画をたてる

具体的な活動が決まったら、地域の実情にあわせ、優先順位をつけていきます。活動者・活動場所・活動資金のことも勘案し、計画作りをしましょう。

役員会・担当者会議・ボランティア会議等

Step 4

やってみる！！

実行する

地域住民やボランティア、各種団体・福祉施設などと連携し、役割分担しながら活動を進めていきます。必要に応じて、行政とも協働していきましょう。

周知・広報

Step 5

次へ！！

ふりかえる・輪を広げる

活動や経費の報告を地域住民に知らせ、参加者や活動者の声を大切にふりかえりをしましょう。そして、次の活動へと輪を広げていく工夫をしましょう。

住民同士で支え合う環境ができていますか？

参加者アンケート・ミーティング・広報誌等